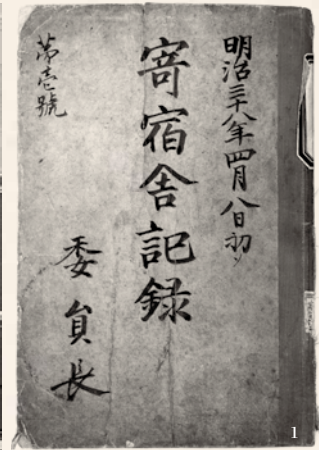




温故知新 北海道大学

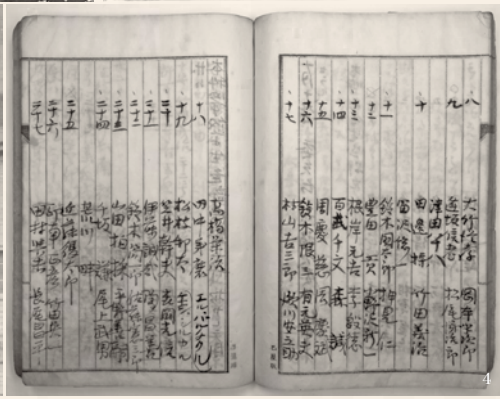
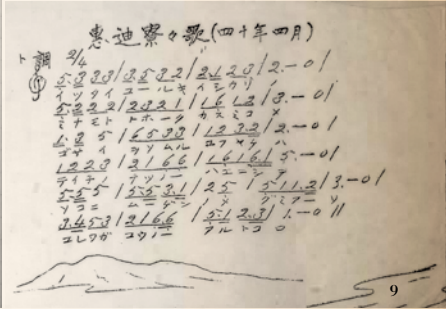
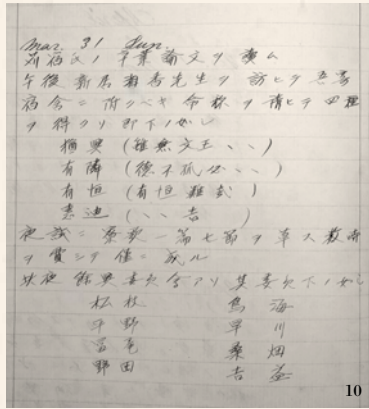
挑戦の140年

SCENE-12

1899-1907

「恵迪」寮の誕生

1. 寄宿舍生による舎務日誌「寄宿舍記録 第巻号 明治三十八年四月八日初メ」表紙 (1905年、大学文書館蔵)
2. 恵迪寮第18号室の室内 (1905年、大学文書館蔵)
3. 寮歌「一带ゆるき」の作者田中義麿 (1907年、大学文書館蔵)
4. 「寄宿舍記録 第巻号」1905年10月9日件に記載の寄宿舍部屋割り (大学文書館蔵)
5. 新寄宿舍の玄関前にて入舎生の記念撮影 (1906年、大学文書館蔵)
6. 寮生を中心としたカーایل研究会の開催を記念し寮の前で撮影 (1907年、大学文書館蔵)
7. 寮歌「一带ゆるき」の作曲者高松正信 (1907年ころ、大学文書館蔵)
8. 南西側から見た恵迪寮 (1908年、大学文書館蔵)
9. 印刷して舎生一同に配った寮歌「一带ゆるき」の楽譜・歌詞謄写版 (「寄宿舍庶務記録 明治三十九年六月」1907年4月4日件、大学文書館蔵)
10. 田中義麿日記「未央手記 II」1907年3月31日件 (大学文書館蔵) 新居敦二郎助教授から「恵迪」等の提示を受けている





Hokkaido University
HISTORY
1899-1907

1899年	2月	- 札幌農学校の北8条キャンパスへの移転決定
	6月	- 北8条キャンパス新校舎新築工事起工式
	9月	- 寄宿舍の自治制度を開始
1903年	7月	- 農学校が北8条キャンパスに移転、旧寄宿舍閉鎖
	11月	- 新寄宿舍新築
1905年	4月	- 新寄宿舍開舎式
1906年	4月	- 開舎一周年記念式 (寮祭の始まり)
1907年	1月	- 寄宿舍の寮名・寮歌募集開始
	4月	- 「恵迪寮」と命名、最初の寮歌「一带ゆるき」発表
	9月	- 札幌農学校が東北帝国大学農科大学として帝国大学に昇格

大学文書館

だいがくぶんしよかん
Hokkaido University Archives

北海道大学に関する歴史的な資料を収集・整理・保存して利用に供するとともに、北海道大学史に関する調査・研究を行っている。

寮名は、札幌農学校予科漢文担当の助教新居敦二郎から漢籍に基づく四案（猶興、有隣、有恒、恵迪）の提示を受けた。その中から寄宿舍の選考委員会が「恵迪寮」と決定した。中国の古典『書経』の一節「恵迪吉従逆凶」（恵に恵へば吉にして、逆に従へば凶なり）からの引用である。「正しい道に従えば良い結果が得られる」を意味する。寮歌の作歌には三件の応募があった。その

寮名・寮歌の決定

ギテ寮歌ノ改作ニ従事ス。
午後、再大久保君ト会シ寮歌ノ修正ニ従ヒ、漸クニシテ成ル。
夜、音楽室ニ於テ寮歌ノ譜ノ制定ニ就キ、高松、早川ノ諸君ト相計ル。
四月四日 高松君等ノ尽力ニヨリ寮歌ノ楽譜成ル（昨日作リタルモノハ反对者多カリシ為、全ク改変セリ）。
午後、早川君ト寮歌（并ニ譜）ヲ謄写版印刷ニ附シ、舎生一同ニ配布ス。

一带ゆるき石狩の／源遠く霞罩め／五彩を染むる夕
吹く風に秋闌けて／黄葉散りしく牧場千里／満野の

中から田中義麿の作歌を軸とし選考委員会メンバーで推敲に当たった。田中の日記は侃々諤々の議論が沸騰した様子を記録している。作曲についても同様で、一旦成った楽譜も大幅改変を余儀なくされている。「一带ゆるき」で始まる恵迪寮最初の寮歌は、田中義麿作歌、作曲は高松正信（本科四年）として知られるが、実際には大久保敬（本科二年）と島海二郎（本科三年）が歌詞推敲に携わり、早川直瀬（予修科一年）が作曲に力を貸し、前年九月に卒業して農学校助教授に就任したばかりの大竹温孝も助力している。

札幌農学校寄宿舍は、この時期、自治を開始し、新建物への引越し、寮名命名と最初の寮歌選定を行なった。札幌農学校自体も東北帝国大学農科大学として帝国大学昇格を果たす。新しい「恵迪寮」を舞台に、寮生たちは寮文化を紡いでいくことになる。現在、寮歌「一带ゆるき」は恵迪寮生が歌い継ぎ、建物は「北海道開拓の村」（札幌市厚別区）が展示をしている。

札幌農学校寄宿舍の移転
札幌農学校は、札幌市街の北一条近辺にあったキャンパスを、農学校の農場施設が広がる北八条周辺へと移転することとなった。一八九九年に新キャンパスで校舎新築工事起工式を行ない、一九〇三年七月には新校舎が落成し、キャンパス移転を実施した。それに伴い、北一条の札幌農学校寄宿舍は一九〇三年七月に閉鎖となり、同年十一月に新キャンパス内、現在の教育学部と文学部の建物あたり（北十一条西七丁目付近）に新寄宿舍建物を新築し、一九〇五年四月に開舎式を実施した。

木造二階建て「ロ」の字型の新寄宿舍建物は、西向きに玄関があり、玄関の脇に舎監室・応接室・宿直室、玄関に面する東側は食堂と炊事場となっていた。南・北に面した建物部分はそれぞれ南寮・北寮と呼ばれ、廊下に面して一、二階に九室ずつあり、寄宿舍係室・炊務委員室・閲覧室・集会室を除く、計三十二室が居室であった。舎生定員は百三十二名である。当時の寄宿舍生は、「設備完全舎内清潔及秩序の立って居る事等は云ふ迄もなく、実習をなすに便利な事、図書館の利用、運動の便等一々功能書を書いたら薬の功能書よりもっと立派なものであらう」（『文武会々報』第四十五号、一九〇五年五月）と新寄宿舍を絶賛している。以前の寄宿舍生は基本的に本科生に限っていたが、新寄宿舍は本科に加え予修科・土木工学・林学科の学生も収容可能となった。

一九〇七年一月には寄宿舍内で寮名・寮歌の募集することとなった。寮名・寮歌の選考経過を、当時の寄宿舍運営の中心人物であった田中義麿（本科二年）の日記か

照は／手稲の夏の榮にして／そこに無限の恩寵あり／是吾校の在る処／／胡沙
吹雪叱咤する／エルムの姿壮なれや／そこに無限の偉力あり／是吾寮の在る処

田中義麿の日記

三月二十六日 応募寮歌及寮名ノ披露ヲナシ、多数決ニヨリテ委員附託ニ決ス。
三月三十一日 午後、新居湘香先生ヲ訪ヒテ、吾寄宿舍ニ附クベキ名称ヲ請ヒテ、四種ヲ得タリ。即下ノ如シ。
猶興（雖無文猶興）
有隣（徳不孤必有隣）
有恒（有恒難哉）
恵迪（恵迪吉）
夜、試ニ寮歌一篇七節ヲ草ス。数時ヲ費シテ僅ニ成ル。
四月二日 夜、寮歌及寮名選定委員会ヲ開ク。少シク遅レテ大竹君モ出席ス。寮名ハ種々討議ノ末、猶興及恵迪ノ中一ヲ撰ブベキコトニ一致セシモ、二者ノ撰択ニ就キテハ異論紛々、容易ニ帰着セザリシガ、遂猶興ナル文字ハ目下中央政界ノ一団体ノ名称タルノ故ヲ以テ之ヲステ、
「恵迪寮」ノ名ヲ用フルコトニ決定ス。
寮歌ニ至リテ更ニ困難ニシテ、三篇ノ応募寮歌中ヨリ予ノ起草セシモノヲ採リ、之ヲ骨子トシテ多少ノ修正ヲ加フルコトトセシガ、沈案苦吟、佳句ヲ獲ルコト真珠ヲ探ルヨリモ難ク、一節一時ヲ費シテ尚成ラズ、大竹君ハ時晩ケレバトシテ辞去リ、高松、早川二子ハ楽譜ノ撰定ニ着手セントテ去リ、残ルモノハ大久保、島海及予ノ三子ノミ。鼎坐シテ互ニ相見黙々トシテ容易ニ語ラズ。時空シク移リ、未だ完璧ヲ成サルニ既ニ二十二時ヲ過グ。乃之ヲ明日ニ譲リテ会ヲ散ス。
四月三日 午前、大久保君ト昨夜ノ後ヲ継